

骨粗鬆症、骨量減少の管理に関する症例検討会

日 時	2026年9月13日(日) 8:50 ~ 10:20
会 場	第2会場 (2F メインホールA)
座 長	牧田 和也 (牧田産婦人科医院)、 粒来 拓 (よしかた産婦人科分院綱島女性クリニック／横浜市立大学産婦人科)
単 位	日本産科婦人科学会：領域講習単位

3-SY28-1

思春期における摂食障害の低骨量症例

野口 結 (横浜市立大学附属市民総合医療センター婦人科)

神経性やせ症は深刻な低骨量と脆弱性骨折のハイリスク病態。経口合成エストロゲンはIGF-1を抑制するため、天然型経皮エストロゲンの低用量漸増からエストロゲン・プロゲステン持続法への逐次療法を試行。「月経を起こさずに補充する」意義と長期管理の出口戦略を議論する。

3-SY28-2

女性アスリート（長距離ランナー）の骨粗鬆症の症例

千葉 恒、北島 百合子 (長崎大学病院 整形外科／産婦人科)

23歳女性長距離選手。原発性無月経で左右の仙骨骨折を反復。BMI 16.8、L1-L4のYAM 67% (Z-score -2.8)、E2 < 5.0 pg/mL。摂取エネルギーとトレーニングの見直し、精神的ケアに加え、HRT (経皮エストラジオール+黄体ホルモン) とテリパラチドを開始した。

3-SY28-3

性成熟期の内科疾患合併の骨粗鬆症例

井上 玲子、井上 大輔 (帝京大学ちば総合医療センター第三内科学講座)

骨粗鬆症の約20%を占める続発性骨粗鬆症の鑑別を提示。原発性副甲状腺機能亢進症・Cushing症候群・Basedow病などの内分泌疾患、低体重・低栄養、低ホスファターゼ症や骨軟化症、COL1A1/COL1A2/LRP5異常による骨形成不全症までを含めて検討する。

3-SY28-4

婦人科悪性腫瘍加療後の骨粗鬆症例

池永 有加 (市立伊丹病院産婦人科)

外科的閉経では術後1年で骨密度が6.7%低下 (自然閉経後5年以内は年約2.5%) し、早発卵巢不全例では80歳までの骨折率が50%高い。長期化を見据えた薬剤選択と、エストロゲン依存性腫瘍でのHRT禁忌に留意。子宮体癌に罹患した42歳未閉経例を提示する。

3-SY28-5

他科で更年期障害と診断された骨粗鬆症の一例

横田 めぐみ (慶應義塾大学医学部産婦人科学教室)

57歳、主訴は倦怠感とのぼせ。腰椎骨密度YAM 78%と肋骨脆弱性骨折歴から整形外科で骨粗鬆症と診断されエルデカルシトール0.75 µg/日を開始されていた。更年期障害を疑われ受診したが、血清カルシウム11.6 mg/dLの高カルシウム血症を認めた。何を疑うか。